

ExtraNews @ Bangladesh

中古医療機器リサイクル

バングラディッシュから研修に来日しているハーク医師の強い願いにより、昨年度から群馬県内外の病院に呼びかけ、中古医療機器を集めています。命に関わる医療機器は定期的に更新され、病院ごとに処分されています。同医師は病院の外に出された器械や寝台などを見て、「母国に持って帰ればどれほどの命が助かるだろう」と考えたのでした。

2012年1月、関東脳神経外科病院(熊谷市)から数台の機器をお預かりする



ことができました。マイクロ波治療器や麻酔機、自動血圧計などです。その後、本事業は同病院長清水先生が理事を務めるNPO 放射線医療国際協力推進機構との共同事業となりました。お預かりした医療機器は、放置自転車輸送でお世話になった、MTM ジャパン(千葉市)の倉庫に保管され、バングラディッシュに出発する日を待っています。

「アジアの子ども達に未来を」 常時ご寄付を集めています

- ・名義「特定非営利活動法人 T・M良薬センター」
- ・銀行「群馬銀行本店 普通 2134150」
- ・郵便局「00160-5-591781」

表紙写真／仮設住宅で生活している方々に送られた手作り人形
印刷協力／群馬県沼田幼稚園(田代浩敬園長)

ロビンクラブ 19



T・M良薬センター ニュースレター

東日本大震災から1年を経て / アジア



「あたりまえをあの子にも」

会報 第19号

平成24年 5月18日
T・M良薬センター事務局
371-0852 群馬県
前橋市総社町総社 1024
Tel&Fax : 027-254-2325
E-mail : office@tmrc.jp
<http://www.tmrc.jp>

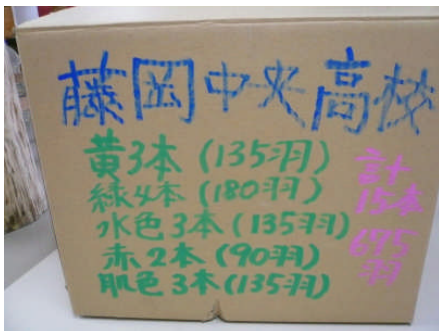
東日本大震災復興支援

3・11 東日本大震災から1年が過ぎ東北沿岸部には、未だ様々な困難に直面し、苦しんでいる多くの人がいる。変わり果てた住み慣れた地で、絶望を感じているという。

TMRC は、広範囲にわたって支援を行うよりも、同じ地域に何度も通って、その町の復興のお手伝いをさせていただく方が良いのではないかと考え、災害発生直後からご縁があった岩手県山田町にその後度々訪れています。当初避難所は町内 30ヶ所に及び、8月末に閉鎖されるまで利用者は最大 7,000 人を超えていました。

他の団体と共同もしながら、定期的に現地を訪れ、群馬県藤岡市で集まった義援金や千羽鶴を届けたり、市内の小中学校の生徒から山田町北小学校の生徒へ学用品を贈ったり、市内のサッカー協会からサッカーボールを贈ったりしました。

時には要望に応え、地元の野菜や肉をお届けしました。またある時は、市内の人形作家の方がお地蔵さんの手作り人形を 100 体、山田町婦人会へ寄贈されました。そのお地蔵さんは仮設住宅で生活するお年寄りに配布され大変喜ばれたそうです。寒くて長い夜を過ごすなか、寂しい心を少しでも温めることができたようで、私たちはホッと胸をなでおろしているところです。



現在は津波で流失した山田湾の牡蠣やホタテの養殖産業を復興しようと、地元の商工会と共同して養殖場を再開することができました。「三陸山田漁業復興協会」が1口 5,000 円の「復興牡蠣オーナー」を募っています。山田湾の美味しい牡蠣が届くそうです。

また、以前仕事に励んでいた方々の中に、今では仮設住宅から一日中出てこれない方がいます。町が復興し、仕事が復活するまで、あとどれくらいの時間がかかるのでしょうか。本当に深刻な問題です。



このような山田町の復興支援と併行して、2011年6月からボランティアバスの活動も続けています。藤岡市ボランティアセンターと提携して企画し、作業員を募集すると多くの賛同者を得ることができました。ある時は市内の高等学校が生徒を募集し、大勢で参加し現地で活動しました。中には毎回参加される方や、80歳を超えたお年寄りもいました。

「週末ボランティアバス」に参加する方々は、2食分のお弁当と着替えを用意して早朝4時過ぎに出発し、仙台市内の被災地で一日ガレキ撤去作業をし、夜10時過ぎに帰ってきます。皆さん報道で現地の様子を見聞きし、何かお手伝いすることができないかと考えていたと仰っていました。阪神・淡路大震災以降、ボランティアバスは全国的な活動となり、大きな力となりました。ご参加下さい。



福島第一原発事故

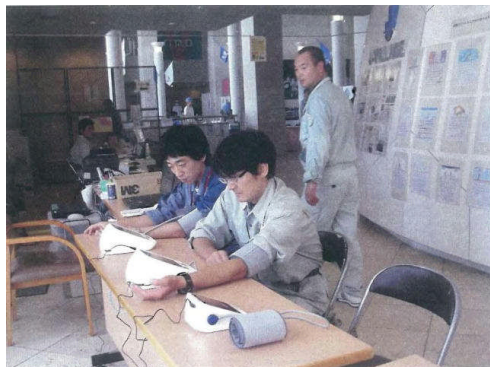
福島原発の爆発によって、日本と世界は未曾有の危機にさらされていると言える。7億2千万テラベクレル（2011/3/11,東電発表）の放射線量は広島原爆の10万倍以上！



この未曾有の大事故に対して、何ができるか。昨年6月に開いた総会で、「今後TMRCは反原発・脱原発で行動する」と表明した理事長に対し、反対意見が出ました。戦後60年の経済発展を支えてきた原発が消えれば、日本が誇る中小企業もつぶれてしまうのではないかと。議論は平行線をたどりましたが、「経済よりもまず命を守るべきである」と、半ば強引に、原発事故に関わることになりました。

日蓮宗やBNN等からの助成金を基に、第一線で原子炉の冷却作業に従事する作業員の健康支援のために7月、Jビレッジの宿舎に希塩酸原液840ml、消毒液精製機4台、専用霧化器8台、血圧測定器を寄贈しました。この除染機を製造された野中順治工学博士は、かつて福島第一原発の開発をされていたお父様を、後に内部被曝により亡くされました。博士は現在、福島県内の除染作業を続けています。

「東電」との折衝は、TM会員であり、細野豪志原発大臣の後援会長をされている旭日重様のご協力を賜り、スムーズに事が運びました。



スタディーツアー

昨年に引き続き、日蓮宗が主催する2011年度のスタディーツアーを企画することになり、今回は世界遺産、カンボジア・アンコール遺跡の修復体験ツアーを開催した。



カンボジアは熱帯モンスーン気候で、1年を雨期と乾期に分けられますが、ベストシーズンは11月～2月とされています。2/13～21、20名のツアー団（団長、清水海隆当会理事）はアンコール遺跡の修復に汗を流しました。

世界遺産アンコール遺跡は、各国の発掘グループが現在作業を進めている巨大な遺跡群です。今回は特別にインド政府考古局のグループに加わり、専門家の指導を受けながら、実際に遺跡の測量やクリーニング、図面おこしや地ならしなどを体験することができました。毎日行うミーティングで意見を出し合い、参加者



全員でプログラムを調整しました。休みの日には現地の子供も達とサッカーをしたり、遺跡の見学をしました。夜の生ビールが美味しかったそうです。^^



光と水の活動

社会貢献を考えている方々にご紹介している、「井戸」と太陽光発電の「日蓮システム」が、続々と寄贈されています。水質検査も行っています。是非ご利用下さい。



この度「前田設備」の協力により、バングラディッシュとカンボジアで寄贈した井戸の水質検査を実施し、心配されていたヒ素は検出されませんでした。これまで現地の方が水をなめてみて「OK (舌がピリピリしない)」と、判断しま

しましたが、これにより安心して勧めることができます。

写真上の井戸は熊谷市管工事業組合が寄贈したものです。ロンジョイ村に2基完成しました。写真下は金沢市妙法寺（出島三能住職）が寄贈したものです。この他、群馬



県藤岡市立西中学校、藤岡南ロータリークラブ、山田はじめ様、神田憲生様、行田市妙心教会（23年度）が井戸を寄贈し、各地に続々と完成しています。高橋忠様の協力で水質検査をしました。



西中学校寄贈井戸



水質検査の様子

井戸の掘削は、ミャンマーからカンボジア、バングラディッシュと広がり、水質検査や既存の井戸の修理なども実施しています。現在日蓮宗大阪和泉宗務所と横須賀市正蓮寺、八王子法妙寺から申込みがあり、新たにミャンマー、カンボジアで3基工事中です。今年度も寄贈者を募集していきます。

3・11の震災以来、自然エネルギーが必要になりました。「日蓮システム」はそれまで主に、電気の通っていないアジアの村に寄贈してきましたが、明かりを採るだけでなく、携帯電話などの電気器機を充電することもできるので重宝され、この1年東北地方の被災地や仮設住宅にお届けしてきました。

私たちが節電し、国民全体で自然エネルギーを求めれば、原発の要らない日本に変わっていきましょう。日本を支えている中小企業を守ることもできます。もしもの時のために、一家に一台「日蓮システム」を！アジアの僻地寄贈にもご協力ください。

日蓮システム（小）10,000円

